

Title	執筆要綱
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学独文学研究室
Publication year	2018
Jtitle	研究年報 (Keio-Germanistik Jahresschrift). No.35 (2018. 3) ,p.92- 94
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN1006705X-20180331-0092">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN1006705X-20180331-0092</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 執筆要綱

(2018 年度より適用)

円滑な編集作業により、誤植のない雑誌を刊行するためには、執筆者各位の多大なご協力が必要となります。この点をご理解のうえで、必ず以下の執筆要綱をお守りください。

雑誌としての統一の必要上、送り仮名・漢字仮名づかいその他、編集委員会で原稿に手を入れさせていただく場合がございます。なお原稿は必ず決定稿をご送付願います。初校および再校は執筆者の方々にご覧いただきますが、三校以降は誤植訂正以外の加筆はできません。また、博士課程・修士課程在籍者が論文の投稿を希望する場合、論文の形式および内容に関し、指導教員の承認を得たうえでの投稿をお願いいたします。

### I. 原稿本文について

#### 1) 日本文の場合

- a. 段落の書きだしは、1 字下げる。
- b. 句読点（白ぬきマル「。」、読点（テン）「、」）その他の記号は、全角扱いとする。ただし行頭には句読点を置かず、前行末にはみ出して打つ。この場合、そこで改行するのでないかぎり、次行の冒頭は 1 字下げにしない。
- c. 作品名・論文題名・雑誌名などの表題には原則として『 』を、引用文には「 」を用いる。引用文中に引用が含まれる場合などには、『 』の代用として《 》を、「 」の代用として〈 〉を用いる。
- d. ダッシュ（——）とハイフン（-）の区別、等号（=）と二重ハイフン（=）の区別をそれぞれ明確にする。
- e. 用字・用語は、原則として新漢字・新仮名づかいを用いる。
- f. ドイツ文によるレジюмеについては、次項 2) を全文、適用する。

#### 2) 欧文の場合

- a. 原稿はあらかじめ、しかるべきネイティブ・スピーカーに目を通してもらうこと。
- b. 新正書法に統一すること。
- c. 引用符号は原則として „ “ を用いる。
- d. ダッシュ（—）とハイフン（-）の区別を明確にする。

## II. 注について

- 1) 注は Word の脚注機能を使うこと。注が文全体にかかる場合、句読点などの前に注番号を付する。

例：…<sup>1</sup> …<sup>2</sup>。 …<sup>3</sup>、(KS 1, 25)<sup>4</sup>。

- 2) 注で出典・参照文献などを指示するときには、原則として以下の例にしたがう。

### a. 全集・作品集などを指示する場合

例：

- ① 作品からの直接引用の場合

Kleist, Heinrich von: Sämtliche Werke und Briefe. Bd. 2. Hrsg. von Helmut Sembdner. 6. Aufl. München 1977. に拠る。本文、括弧内に該当巻数およびページ数を示す。

- ② 作品からの参照箇所を示す場合

Vgl. Wagner, Richard: Dichtungen und Schriften. Jubiläumsausgabe in 10 Bänden. Bd. 5. Hrsg. von Dieter Borchmeyer. Frankfurt a. M. 1983 [以下、JA と略記] , S. 176f.

- ③ 『ゲーテ全集』第13巻、芦津丈夫他訳、潮出版社、1980年、122-126頁所収。

### b. 文献が単行本の場合

例：

- ④ エーゴン・フリーデル『近代文化史2』宮下啓三訳、みすず書房、1987年、360頁。

- ⑤ 川越修『ベルリン王都の近代』ミネルヴァ書房、1988年、165-176頁参照。

- ⑥ Wolf, Christa: Sommerstück. Berlin u. Weimar 1989, S. 171.

なお、同一文献からの直接引用の指示が複数にわたる場合は以下の例にしたがう。

- i. 直前の直接引用または参照箇所と同書の場合

Ebd., S. 49.

- ii. 二つ以上前の直接引用または参照箇所と同書の場合

Wolf: a. a. O., S. 49.

- ⑦ 文献からの参照箇所を示す場合

Vgl. Jolles, André: Einfache Formen. 5. Aufl. Tübingen 1974, S. 217ff.

なお、同一文献からの参照箇所の指示が複数にわたる場合は以下の例にしたがう。

i. 直前の直接引用または参照箇所と同書の場合

Vgl. ebd., S. 122.

ii. 二つ以上前の直接引用または参照箇所と同書の場合

Vgl. Jolles: a. a. O., S. 122.

c. 論文集・雑誌・新聞などに収録されている文献を指示する場合

例：

- ⑧ 川中子義勝「ハーマンと旧約聖書——《ゴルゴタとシェブリミニ》」『ドイツ文学』第87号、1991年、12-22頁。参照箇所は14頁。
- ⑨ 松下亮「ハイネとベルネ——伝記的にみた両者の交渉前史」『独仏文学研究』第24号、九州大学独文学研究会、1974年、69-86頁。
- ⑩ Möbus, Frank: Des Plutus zwiefache Rede. Eine kritische Bibelanspielung in Mummenschanz des Faust II. In: Zeitschrift für deutsche Philologie, Bd. 107. (1988) Sonderheft, S. 71-84, hier S. 78f.
- ⑪ Bode, Ursula: Maler und Dichter der Idylle. In Wolfenbüttel wird Gessners Werk ausgestellt. In: Süddeutsche Zeitung (5. 9. 1980), S. 37.
- ⑫ Meyer, Reinhart: Das Nationaltheater in Deutschland als höfisches Institut: Versuch einer Begriffs- und Funktionsbestimmung. In: Das Ende des Stegreifspiels. Die Geburt des Nationaltheaters. Hrsg. von Roger Bauer u. Jürgen Wertheimer. München 1983, S. 124-152, besonders S. 149.
- ⑬ 直接引用および参照箇所の指示が複数にわたる場合はbの例にしたがう。

d. 語学論文の場合

例：

- ⑭ Henne (1986: 137) この場合には論文末に文献リストを付け、次のように記すこと。Helmut Henne (1986): Jugend und ihre Sprache. Berlin/New York (de Gruyter).

e. その他、注の記載方法は、一般に認められている方法に準拠すること。

### III. 備考

表記に関する疑問等は、『研究年報』刊行会までお問い合わせください。